

平成30年1月5日

麦栽培情報 1月号

J A 柳 川
南筑後普及指導センター

【麦】

1 生育概況

播種は、11月下旬～12月上旬を中心に行われました。気温は平年よりやや低く推移しており、11月下旬頃播種したほ場では、現在1.8～2.4葉期になっています。

2 施肥

子実のタンパク質含有率を高めるため、追肥は1月下旬頃を目安に必ず施用して下さい。「シロガネコムギ」は「麦追肥一発1号」を、「ミナミノカオリ」は「麦のかおり」を下表に準じて施用します。

	品 種 名	肥料名及び10a当たり施用量
水稻後	シロガネコムギ	「麦追肥一発1号」 40kg
	ミナミノカオリ	「麦のかおり」 40kg
大豆後	シロガネコムギ	「麦追肥一発1号」 30kg
	ミナミノカオリ	「麦のかおり」 30kg

※大豆後作の追肥については、生育に応じ加減して下さい。

12月下旬以降に播種したほ場の追肥時期は、2月下旬～3月上旬です。
施肥量は、NK7号を20kg/10aです。

3 麦踏み・土入れ

麦踏みと土入れは、節間伸長開始前までにそれぞれ3回を目安に行います。麦踏みは、麦の分けつを促進する効果等がありますが、ほ場が湿潤な状態で行うと土壌を締めつけ、生育を抑制することがありますので、必ず土壌が乾燥した状態で行ってください。

土入れは、無効分けつの抑制や雑草抑制及び排水対策などの効果があります。また、追肥後に行うと肥効が安定します。土塊が大きくなるないように、麦踏みと同様に土壌が乾燥した状態で行ってください。なお、土入れは麦踏前に実施し、麦踏み直後には行なわないようにします。

4 雑草防除

イネ科雑草や広葉雑草が多い場合は、ハーモニー75DF 水和剤を散布します。ハーモニー75DF 水和剤は、ハーモニー細粒剤 F を使用したほ場では使用できないので注意が必要です。

また、広葉雑草（特にヤエムグラ）のみが発生した場合は、エコパートフロアブルが有効です。なお、カラスノエンドウに対してはアクチノール乳剤を使用します。キンポウゲ類が多い場合は、バサグラン液剤を使用します。除草剤散布後 1 週間程度は、麦踏みや土入れを実施しないで下さい。

※薬剤散布時には、周辺の作物等に飛沫がかからないよう十分注意しましょう。

薬 剤 名	使用量 (希釈水量100リットル)	使用時期・適用雑草
ハーモニー75DF 水和剤	5～10g	麦1葉期～節間伸長前 スミレ、ポウ5葉期まで
エコパートフロアブル	50～100ml	節間伸長開始期まで 広葉雑草2～4葉期 特にヤエムグラに効果高い
アクチノール乳剤	100～200ml	穂ばらみ期まで(雑草生育初期) 1年生広葉雑草 特にカラスノエンドウに効果高い
バサグラン液剤	100～200ml	小麦の生育期、収穫45日前まで (雑草の3～6葉期) キンポウゲ類に効果が高い

◎カズノコグサ、タデ対策：播種時の土壌処理剤として、リベレーターフロアブル、リベレーターG（粒剤）を散布したほ場では、1月下旬頃までは残効が期待できます。従って後発するカズノコグサ、タデに対しては、1月下旬～2月上旬にハーモニー75DF 水和剤を散布します。

5 穂揃期追肥

「ミナミノカオリ」については、1月下旬に「麦のかおり」及び4月下旬の穂揃期に硫酸を施用することで、麦粒のタンパク質含有率の向上を図っているところです。

実需者が求める12.0%以上を達成するため、穂揃期に10a当たり硫酸15kg施用して下さい。

農薬使用上の注意

- 1 散布前に必ず農薬ラベル（農薬基準）を確認！
- 2 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！
- 3 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！
- 4 防除履歴の正確な記帳！